

令和元年度

看護管理学／看護体系・機能学分野  
基礎看護学教室

# 年報

2019年4月1日—2020年3月31日

## 巻頭言

### 私たちの「看護管理学」を発信へ

令和という新しい時代が始まりました。私が看護管理学／看護体系・機能学分野（基礎看護学教室）に着任して5年が経ち、研究室の活動も新しい段階に移ったように感じています。これまでの年報の巻頭言を読み返すと、最初の2年間は研究室の基盤づくりに取り組み、3年目にここで取り組む看護管理学を定義して研究の方向性を定め、4年目にそのために取り組むこととして各研究の位置付けを確認していました。

5年目を迎えた今年度は、看護管理学を専門とする4名の教員に加えて、12月には育児休業に入った市川奈央子先生の代替として、本学の保健管理学分野で修士を取得し、老年看護学分野で助教経験がある、菅野由貴子先生が加わりました。大学院生も博士課程8名、修士課程4名と充実して、多くの研究プロジェクトが展開されました。一見バラバラの研究課題に取り組んでいるようにみえても、「働く人や組織が潜在的にもつ力を引き出すこと」を目指して、その鍵となる要因を探求している点で共通しており、研究室としての根を張ることができたとうれしく思っています。これからも、私たちの研究室が目指すのは、「患者と看護職及びその他の医療従事者、組織や社会の全てとその未来に幸せをもたらすこと」で、そのために、さまざまなアプローチで組織現象を解明し、組織の発展・活性化のレバレッジを探していること、新しい研究方法論の開発に取り組んでいることを各々が胸に刻み、同じ目的に取り組む仲間として、互いに励まし合い、労い合い、切磋琢磨しながら研究を進めていく、そんな研究室をつくってきたいと思います。

今年度の目標の1番目は、「研究成果を発信すること、論文を投稿すること」でした。発信すること、特に論文として公表することで、知の蓄積に参加でき、次の研究活動につながるという思いからでした。私と國江慶子先生、市川奈央子先生の3名で最初に行った研究と、最上学年である博士課程2年の佐伯昌俊さんの研究論文の2本が国際誌に採択されたことは、研究室の大きな一歩になりました。和文誌にも大学院生らを筆頭とする計5本の論文が採択されました。特に頼もしかったのは、博士課程の大学院生のみみんなが粘り強く投稿を続けたことで、あと一息のところまできた論文もいくつかあります。学会発表も18件あり、うち5件は国際学会で、その2件は英語での口演でした。研究成果を発信し、論文を投稿し、フィードバックを受けながら次の研究を展開するという好循環が生まれつつあることを感じます。大学院生にとって、サマープログラムで看護管理学を選択した米国と香港の2名の留学生に、自分たちの研究を紹介し、意見交換できたことも貴重な経験になったと思います。挑戦精神をこれからも応援していきたいと思います。

研究成果の還元先は病院などの現場ですが、教員と大学院生で看護管理者研修の講師を務めたり、中小規模病院へのアウトリーチ支援事業を研究対象とする活動も2年目になりました。研究者として現場と関わり、現場と知を交換できる機会があることの大切さを実感しています。今後、研究成果の還元も含めた研究サイクルを築いていくことに、力を注いでいきたいと思います。

今年度末で國江慶子先生が東京女子医科大学講師にご栄転されます。4年間で7名の大学院生の研究指導を担い、研究活動はもちろん、学部教育にも研究室の運営にも多大なご貢献をいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

令和2年3月25日

准教授 武村雪絵

## 主な出来事

2019年4月

博士課程3名進学

博士課程1名入学（研究生からの入学）

修士課程3名入学

2019年12月

学術支援専門職員1名着任

2020年1月

修士課程学生1名修士論文提出

2020年3月

助教1名退任

学術支援専門職員1名任期満了

修士課程学生1名修了（1名進学）

## 教室員

### 准教授

武村雪絵

### 助教

國江慶子

市川奈央子

### 特任助教

木田亮平

### 学術支援専門職員（12月～）

菅野由貴子

### 非常勤講師

井出恵似子（東京ベイ・浦安市川医療センター 経営企画室 企画室補佐）

笥 淳夫（工学院大学 建築学部 建築デザイン学科 教授）

島田陽子（厚生労働省医政局看護課 課長）

水流聡子（東京大学大学院工学系研究科 教授）

平林勝政（國學院大学 名誉教授）

### 事務員

小川繁子

### 客員研究員

池田真理

大西淳子

小澤茉祐

奥山絢子

甲斐貴雅

川口倅左

栗原良子

坂木晴世

柴田めぐみ

佐々木美奈子

佐藤博子

竹原君江

長坂雄太

真下綾子

大学院生

博士課程 2 年

磯部環

駒形万里絵

佐伯昌俊

船越千佳

博士課程 1 年

石井馨子

蒋思思

田中慎吾

高橋好江

修士課程 2 年

井上真帆

修士課程 1 年

寿々木剛志

長岡紗規子

渡邊龍之介

## 学部講義

基礎看護学教室は、看護学概論、基礎看護学Ⅰ、看護支援技術論、基礎看護学実習、看護管理学・看護管理学実習、基礎看護学Ⅱ、看護学概論（駒場）を担当した。

## 看護学概論

講義題目 /Subtitle	看護学概論
授業の目標、概要 /Course Objectives/ Overview	看護の概要を理解し、看護の基盤となる価値観（人間観、倫理観、生命/生活/健康観）を学ぶことを目的とする。 看護を学ぶ上で基礎となる看護の構成概念（パラダイム）や機能を理解し、看護の諸理論、看護の対象や看護の実践について講義や討議を通じて学ぶ。 最終回は医学科・薬学部との合同授業（Interprofessional Education: IPE）として、多様な価値観に触れ、自己の価値観を相対化し、自分と異なる価値観への受容性を高める。
授業のキーワード /Keywords	日本語用 /Japanese 看護学、看護の概念、看護の機能、看護理論、看護過程 英語用 /English nursing, concepts of nursing, functions of nursing, nursing theory, nursing process
授業計画 /Schedule	9月24日(火) 看護とは 10月1日(火) 看護の提供者と対象の理解 10月8日(火) 看護を語る 10月15日(火) 看護過程 10月29日(火) 看護における倫理 11月5日(火) 多職種連携（IPE）（医学科・薬学部との合同授業） 11月12日(火) 看護理論発表  (注)非常勤講師の都合により、内容に変更がある。
授業の方法 /Teaching Methods	講義、グループワーク、ディスカッション
成績評価方法 /Grade Evaluation	出席状況と課題発表、レポートおよび試験により評価を行う。
教科書 /Textbook	各講義で資料を配布する
参考書 /Reference	看護学概論-基礎看護学<1>（医学書院） 看護学概論-看護追及へのアプローチ 第4版（医歯薬出版株式会社）
履修上の注意 /Notes on Taking the Course	出席が3分の2に満たない場合は単位を取得できない。 また、正当な理由なき遅刻及び退出が30分を超えた場合には、当該講義コマは欠席扱いとする。
関連ホームページ /Course-Related Websites	<a href="http://nurs-adm.umin.jp/education/">http://nurs-adm.umin.jp/education/</a>
その他 /Others	講義スケジュールは、講師の都合などにより変更になる場合がある。  初回（9月24日）はオリエンテーションおよび第7回看護理論発表会のためのグループワーク決めを行うため、原則出席すること。 第6回（11月5日）は医学科・薬学部との合同授業であり、時間と場所が変則的なので注意する。 講義時間は10:00~12:00（予定）、講義場所は後日お知らせする。
実務経験のある教員による授業科目 /Course conducted by instructor with practical work experience	該当科目である/ Applicable course
実務経験と授業科目の関連性 /Relationship between instructor's practical work experience and the course	看護の実務経験を有する複数の教員が基礎看護学を中心とする看護学概論について講義をする。また、現在臨床で看護実践を行なっている看護職者をゲスト講師に迎え、その経験を活かして講義をする。

※非常勤講師：阿保 勇介（東京大学医学部附属病院 教育担当）  
山上 睦実（東京大学医学部附属病院 がん看護専門看護師）

## 基礎看護学 I

講義題目 /Subtitle	基礎看護学 I
授業の目標、概要 /Course Objectives/ Overview	人を理解し援助するための知識・技術を学ぶことを目的とする。 患者に適切なケアを提供するための思考過程（看護過程）、患者を知る技術（問診、バイタルサイン）、患者をケアする技術（食事）、患者の環境を整える技術（感染管理、シーツ交換、環境整備）について、講義や演習を通して身につける。また、病院見学実習を通して、患者の療養環境や看護の実際を見学し理解を深める。
授業のキーワード /Keywords	日本語用 /Japanese 看護、看護過程、看護方法論、看護技術 英語用 /English nursing, nursing process, methodology of nursing, nursing skill
授業計画 /Schedule	11月28日(木) 患者から聞く技術：問診 12月 5日(木) 安全な環境を整える技術：感染管理（東大病院 感染管理認定看護師） 12月12日(木) 患者に適切なケアを提供するための思考過程：看護過程 12月19日(木) 早期体験実習（東大病院） 12月26日(木) 患者を診る技術：バイタルサイン 1月 9日(木) 患者の回復力を妨げない技術：療養環境 1月16日(木) 患者の回復力を支援する技術：食事※食事介助の演習を行うのでアレルギーがある学生は事前に相談すること。その他準備する物品は事前に通知する。
授業の方法 /Teaching Methods	講義及び演習、実習を行う。
成績評価方法 /Grade Evaluation	出席状況と課題とレポートおよび試験により評価を行う。
教科書 /Textbook	各講義で適宜資料を配布する。
参考書 /Reference	ナーシングスキル(通年使用できるライセンスを付与する) 基礎看護技術 I・II (医学書院) 基礎看護技術 I・II (メテカルフレンド社)
履修上の注意 /Notes on Taking the Course	看護学概論（A1ターム）の単位取得を履修条件とする。 演習中心に行うため、正当な理由なき遅刻、欠席は認められない。 また、正当な理由なき遅刻および退出が30分を超えた場合には、当該講義コマは欠席扱いとする。 *第2回「感染管理」の履修をしていない者は、第4回「早期体験実習」への参加は認められない。 *第7回「食事」終了後、筆記試験を行う。
関連ホームページ /Course-Related Websites	<a href="http://nurs-adm.umin.jp/education/">http://nurs-adm.umin.jp/education/</a>
その他 /Others	授業スケジュールは講師の都合により変更になる場合がある。 演習を行うため、動きやすい服装（ハイヒール、サンダル、スカートは避けること）で出席すること。
実務経験のある教員による授業科目 /Course conducted by instructor with practical work experience	該当科目である / Applicable course
実務経験と授業科目の関連性 /Relationship between instructor's practical work experience and the course	看護の実務経験を有する複数の教員が基礎看護学について講義・演習を行う。

※非常勤講師：三橋美野（東京大学医学部附属病院 感染対策センター主任副看護師長）

## 看護支援技術論

講義題目 /Subtitle	看護支援技術論
授業の目標、概要 /Course Objectives/ Overview	看護支援技術論では、人を理解し援助するための知識・技術を学ぶことを目的としている。具体的には、フィジカルアセスメントの技術と療養生活における基本的な援助技術を習得する。
授業のキーワード /Keywords	日本語用 /Japanese 看護,基礎看護技術,フィジカルアセスメント 英語用 /English nursing, basic nursing skills
授業計画 /Schedule	7月8日(月) ・フィジカルアセスメントの基礎 ・フィジカルアセスメント(呼吸系、循環系、消化系、泌尿器系) 7月10日(水) ・フィジカルアセスメント(運動系・神経系) ・移動・移乗・ポジショニング 7月12日(金) ・身体の清潔(清拭、更衣、洗髪、足浴) 7月16日(火) ・排泄ケア(導尿、床上排泄、陰部洗浄、おむつ交換) 7月18日(木) ・技術テスト ・基礎看護学実習オリエンテーション
授業の方法 /Teaching Methods	講義および演習
成績評価方法 /Grade Evaluation	出席、演習への取り組み、技術テストにより評価を行う。
教科書 /Textbook	各講義で資料を配布する
参考書 /Reference	ナーシングスキル(通年使用できるライセンスを付与する) フィジカルアセスメント完全ガイド(学研) 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(医学書院) 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(メテカルフレンド社)
履修上の注意 /Notes on Taking the Course	履修条件：看護学概論、基礎看護学Ⅰ、ヘルスコミュニケーション学、病態疾患論、疾病論、免疫と生態防御、救急処置の全課題を終了し、単位を取得(見込み)していること。 演習中心に行うため、正当な理由なき遅刻、欠席は認められない。 演習の進行状況によっては、5限まで延長する可能性がある。 講義のない7月9日、7月11日、7月17日も予習・復習のため演習室を開放する。
関連ホームページ /Course-Related Websites	<a href="http://nurs-adm.umin.jp/education/">http://nurs-adm.umin.jp/education/</a>
その他 /Others	演習を行うため、動きやすい服装(ハイヒール・サンダル・スカートは避ける)で講義に出席すること。 秒針のある時計、聴診器を持参すること。 技術テストは、看護学実習用ユニフォームと靴を着用して行う。
実務経験のある教員による授業科目 /Course conducted by instructor with practical work experience	該当科目である/ Applicable course
実務経験と授業科目の関連性 /Relationship between instructor's practical work experience and the course	看護の実務経験を有する複数の教員が看護技術について講義・演習を行う。



## 基礎看護学実習

講義題目 /Subtitle	基礎看護学実習
授業の目標、概要 /Course Objectives/ Overview	病棟実習を行う。 病棟実習では、入院患者を受け持ち、看護過程の展開および看護ケアを実践する。それらを通し、病院において療養生活をしている患者を理解し、基本的看護技術を臨床現場において適用するとともに、看護過程について実践を通して学ぶ。
授業のキーワード /Keywords	日本語用 /Japanese 看護,コミュニケーション,基礎看護技術,臨床実習 英語用 /English nursing, basic nursing skills, communication, practicum, hospital
授業計画 /Schedule	7月19日(金)～8月1日(木) オリエンテーション・集中演習・病棟実習
授業の方法 /Teaching Methods	臨床実習
成績評価方法 /Grade Evaluation	出席状況、実習への取り組み、レポートにより評価する。
教科書 /Textbook	特になし
参考書 /Reference	ナーシングスキル(通年使用できるライセンスを付与する) エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図(中央法規) 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(医学書院) 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(メテカルフレンド社)
履修上の注意 /Notes on Taking the Course	履修条件：看護支援技術論の単位取得予定者で看護科学専修の学生。
関連ホームページ /Course-Related Websites	<a href="http://nurs-adm.umin.jp/education/">http://nurs-adm.umin.jp/education/</a>
その他 /Others	詳細は、実習前オリエンテーションにて通知する。基礎看護学実習前に配布する看護学実習要綱を参照。

### 1. 目的

病院において療養生活をしている患者を理解し、基本的看護技術を臨床現場において適用するとともに、看護過程について実践を通して学ぶ。

### 2. 目標

- (1) 病院という場、看護師の役割および病院での療養生活の概要についての理解を深める。
- (2) 担当患者の状態に応じて、適切な患者—看護師関係を築くことができる。
- (3) 健康障がいがある患者の日常生活にどのように影響しているかを観察し、考えることができる。
- (4) 担当患者の状態に応じて、日常生活の援助を実践できる。
- (5) 担当患者の状態をアセスメントし、看護上の問題および目標を明らかにすることができる。

### 3. 実習施設

東京大学医学部附属病院 (A棟6階北病棟・A棟8階南病棟・A棟13階北病棟)

### 4. 実習期間

令和元年7月19日(金)～令和元年8月1日(木)

## 5. 実習スケジュール

※ 背景が灰色の部分は病棟実習を行う日程。

注1：各病棟の発表時間は30分間（各学生の発表5分、師長・実習指導者からの講評、教員・TAからの講評を含む）。各病棟の発表時に、師長・実習指導者の入退室がある。

場所は管理研究棟3階 看護部研修室で行う。他教室の先生方も発表の見学に来られます。

	7月15日(月)	7月16日(火)	7月17日(水)	7月18日(木)	7月19日(金)
午前	※学内演習				・全体オリエンテーション
午後	※学内演習				・病院オリエンテーション ・病棟挨拶、情報収集
	7月22日(月)	7月23日(火)	7月24日(水)	7月25日(木)	7月26日(金)
午前	・病棟オリエンテーション ・患者挨拶、情報収集	・病棟実習	・病棟実習	・病棟実習	・病棟実習
午後	・病棟実習(～15時) ・学内(15時～)	・病棟実習	・ロングカンファレンス	・病棟実習	・病棟実習
	7月29日(月)	7月30日(火)	7月31日(水)	8月1日(木)	
午前	・病棟実習	・病棟実習	・病棟実習 (病棟最終日)	・実習全体振り返り	
午後	・学内日	・病棟実習	14:00～15:30 病棟実習全体発表会 <sup>注1</sup>	・面談	

## 6. 実習内容及び進め方

- ・ 病棟での実習時間は8:00～16:00とし、昼食のための休憩を1時間取る。
- ・ 各学生が一人の患者を受け持つ。
- ・ 実習指導者及び担当教員の指導を受けながら、日常生活援助を病棟での看護に組み入れて実践する。
- ・ 日常生活援助の計画については、日々の実習記録に記載し、毎日の実習開始時に実習指導者及び担当教員の指導を受ける。
- ・ 患者についての情報収集・アセスメントを行い、指導の下に患者の全体像を理解するとともに、看護問題を明確化し看護目標を立てる。
- ・ 看護目標にもとづき、看護計画を立案、実施・評価する。
- ・ 毎日の実習終了時に30分程度のショートカンファレンスを行い、その日に学んだことや、看護活動を展開する上で検討を要することについて実習指導者及び教員とともに話し合う。
- ・ 7月24日(水)の午後にロングカンファレンスを行い、患者の全体像の整理、関連図の修正、看護計画の立案などについて実習指導者及び教員とともに話し合う。
- ・ 7月29日(月)午前中に週末の様子などを踏まえて、実習指導者及び教員とともに看護計画の修正を行う。

- ・ 7月29日(月)午後は学内日とし、それまでの様子や指導内容、ケアの実施・評価を踏まえ看護計画を修正する。
- ・ 7月31日(水)午後に全体発表会を行う。病棟実習全体を通して患者との関わりや看護について学んだことを各学生が発表し、病院看護部・病棟師長・実習指導者・担当教員と共有する。

## 7. 病棟実習全体発表会について

### (1) 発表内容

- ・ 受け持ち患者を紹介するとともに、実施したケアとその評価や患者との関わりの変化など、テーマを決めて発表する。実習の感想を含めても良い。

### (2) 発表時間

- ・ 学生一人あたり5分程度

## 8. 評価方法

- ・ 出席、実習内容および実習記録、レポートによって総合的に評価する。

## 9. 提出物について

### (1) ①毎日提出：「1日の行動計画」、「温度版」

#### ②実習中に提出

- ・ 「基礎情報」、「薬一覧」：7月23日(火)の実習開始時
- ・ 「関連図」、「問題・課題リスト」：7月24日(水)の実習開始時
- ・ 「看護計画」：7月25日(木)の実習開始時

※ ①、②を必要時修正加筆し、実習終了後(2)のレポートと一緒に提出する。

### (2) レポート課題

#### ①臨床実習で学んだこと (A4サイズ、2頁以内、表紙不要)

期限：8月7日(水) 17:00

## 10. その他

- (1) 全出席を原則、遅刻は厳禁とする。やむを得ない事情で欠席する場合は、指導教員に速やかに連絡を取ること。
- (2) 実習中は病院内の更衣室を借用し、実習衣、ナースシューズを着用する。ロッカーの鍵を借用するため紛失しないよう管理し、実習終了後、教員に返却すること。

## 看護管理学

講義題目 /Subtitle	看護管理学				
授業の目標、概要 /Course Objectives/ Overview	看護管理学の概要と看護管理実践に必要な基礎的知識を学ぶ。さらに、看護管理の視点から看護の現場に起こる現象と、諸課題を理解し、その対応策について検討する。具体的には、看護管理学概論、組織と人の管理、看護を提供する仕組み、キャリア、看護に関する政策、情報の管理、医療安全、医療や看護の質保証などについて学ぶ。				
授業のキーワード /Keywords	<table border="1"> <tr> <td>日本語用 /Japanese</td> <td>看護管理、医療の質</td> </tr> <tr> <td>英語用 /English</td> <td>nursing management, health care quality</td> </tr> </table>	日本語用 /Japanese	看護管理、医療の質	英語用 /English	nursing management, health care quality
日本語用 /Japanese	看護管理、医療の質				
英語用 /English	nursing management, health care quality				
授業計画 /Schedule	<p>4月8日（月）3限 看護管理の基礎知識</p> <p>4月15日（月）3限 組織と人/看護提供システム（看護サービス管理）</p> <p>4月22日（月）3限 資源の管理/看護に関する政策動向/政策過程</p> <p>5月13日（月）3限 質の管理・医療安全</p> <p>5月20日（月）3限 チームコミュニケーション</p> <p>5月27日（月）3限 情報の管理</p> <p>6月3日（月）3限 キャリアと生涯学習・試験</p>				
授業の方法 /Teaching Methods	講義およびディスカッション				
成績評価方法 /Grade Evaluation	出席および課題、試験により評価を行う。				
教科書 /Textbook	各講義で資料を配布する。				
参考書 /Reference	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践①看護管理（メディカ出版）				
履修上の注意 /Notes on Taking the Course	出席が3分の2に満たない場合は単位を取得できない。 正当な理由なき遅刻及び退出が30分を超えた場合には、当該講義コマは欠席扱いとする。 6月3日は試験のため4限まで延長する。				
実務経験のある教員による授業科目 /Course conducted by instructor with practical work experience	該当科目である/ Applicable course				
実務経験と授業科目の関連性 /Relationship between instructor's practical work experience and the course	看護やマネジメントの実務経験を有する複数の教員が看護管理について講義を行う。				

## 看護管理学実習

講義題目 /Subtitle	看護管理学実習
授業の目標、概要 /Course Objectives/ Overview	看護管理についての講義をふまえたうえで、病院管理・看護管理の実際について見学実習し、管理者との話し合いを通して看護管理の視点を養う。 具体的には、組織理念と組織運営、ひとの管理、教育・キャリア発達支援、医療安全・質管理、情報共有と情報管理、看護提供システムに着眼し学ぶ。
授業のキーワード /Keywords	日本語用 /Japanese 看護管理, 病院, 医療安全 英語用 /English nursing management, hospital, patient safety
授業計画 /Schedule	6月7日（金）東京大学医科学研究所附属病院 6月14日（金）東京大学医学部附属病院 6月21日（金）東京大学医学部附属病院 6月28日（金）聖路加国際病院 7月5日（金）報告会・カンファレンス
授業の方法 /Teaching Methods	以下の病院において実習を行う。 東京大学医学部附属病院、東京大学医科学研究所附属病院、聖路加国際病院
成績評価方法 /Grade Evaluation	出席およびレポートにより評価する。
教科書 /Textbook	なし
参考書 /Reference	なし 資料は別途配布
履修上の注意 /Notes on Taking the Course	履修条件：看護科学専修の学生、S1タームの「看護管理学」の単位取得見込みであること。 原則として全日程の出席が必要である。

### 目的

1) 病院管理・看護管理の実際について見学実習し、管理者との話し合いなどを通じて、病院管理・看護管理の諸課題への視点を養う。

### 2) 目標

講義やこれまでの看護学実習をふまえ、よりよい医療・看護を提供していくための組織運営・管理の実際を見学実習する。

3) 看護管理学実習の着眼点○組織理念と組織運営○ひとの管理○教育・キャリア発達支援○医療安全・質管理○情報共有と情報管理○看護提供システム

### 4) 実習施設・実習期間

- (1) 東京大学医科学研究所附属病院：2019年6月7日
- (2) 東京大学医学部附属病院：2019年6月14・21日
- (3) 聖路加国際病院：2019年6月28日
- (4) まとめ：2019年7月5日

### 実習内容

- (1) 東京大学医科学研究所附属病院実習部署：看護部（安全担当・教育担当・情報担当など）
  - ①看護部の概要紹介
  - ②組織横断的活動の実際を見学

③実習のまとめ（実習内容の発表と共有）

（2）東京大学医学部附属病院実習部署：病棟（各部署 1～2 名ずつ）

- ①病院全体の看護管理と看護部の概要についての講義
- ②看護師長業務・リーダー業務の見学（各部署の看護師長・主任と行動）
- ③実習のまとめ（実習内容の発表と共有）

（3）聖路加国際病院実習部署：薬剤部、栄養科、QI センター、SPD、施設環境整備課など（各部署 1～2 名ずつ）

- ①看護部の概要紹介
- ②各部署の概要説明を受け、業務の実際を見学（各部署の担当者と行動）
- ③実習のまとめ（実習内容の発表と共有）

6) その他

- ①各施設の集合時間・集合場所は別途指定する。
- ②東大医科研病院では、私服（スーツに準ずる）・足音が響かない靴（ナースシューズでも可）を着用する。東大病院と聖路加国際病院では、実習衣、ナースシューズを着用する。

7) 評価方法出席・参加態度・レポートにより総合的に評価する。

8) レポート

- （1）東大医科研病院における実習で学んだこと及び感想（A4 サイズで 1 枚程度）
- （2）東大病院における実習で学んだこと及び感想（A4 サイズで 1 枚程度）
- （3）聖路加国際病院における実習で学んだこと及び感想（A4 サイズで 1 枚程度）
- （4）前ページ「3. 看護管理学実習の着眼点」の分類を使用し、講義・実習から学んだことを記述（A4 サイズで 2 枚程度）

※（1）～（4）それぞれに学生証番号、名前を記載する。

※提出期限：2019 年 7 月 8 日(月)17：00 提出先：医学部 3 号館 N201（基礎看護学教室助教室）

## 基礎看護学Ⅱ（選択科目）

授業の目標：基礎看護学および看護管理学に関するトピックスを学ぶ

日時	内容
4/10__3 限	文献検索 —学生は PC 持参 —看護管理学に関する文献を探す —論文抄読の課題だす (ゼミで使用しているフォーマットを配布。発表日には文献内で使用されている言葉を説明できるように資料作成してくる)
4/17__1・2 限 (開始 9 時)	特論Ⅰ「医療社会システム工学による看護の臨床地の可視化と質保証」 水流先生の講義受講
4/24__1・2 限 (開始 9 時)	特論Ⅰ「建築・環境デザインから医療・看護を変える」 笈先生の講義受講
5/8__3・4 限	・4/17・24 の講義を受けてのディスカッション (約 60 分) ・文献抄読の発表 (約 50 分程度/名)
5/15__1・2 限 (開始 9 時)	特論Ⅰ「病院の力を引き出す：テッセイの事例を用いたワーク」
5/22__1・2 限 (開始 9 時)	特論Ⅰ「病院経営の現場から」 井出先生の講義受講
6/4 (火) __3・4 限	・5/15・22 の講義を受けてのディスカッション (約 60 分) ・文献抄読の発表 (約 50 分程度/名)

### 【履修上の注意】

※この科目をとおして、学生には文献抄読を 2 本してもらい、その発表してもらおう。

文献は必ず 1 本は英文のものを読む。

4/17、4/24、5/15、5/22 の 4 回は看護管理学特論Ⅰと同じ講義を受ける。

履修者は 5/8、6/4 の抄読文献の発表日に必ず出席して発表をしてください。

## 看護学概論Ⅱ（駒場：1・2年生対象）

講義題目 /Subtitle	看護学概論Ⅱ－社会で活躍する看護プロフェッショナル－
授業の目標、概要 /Course Objectives/ Overview	<p>高度に医療技術が発展してきた現代社会では、疾患を抱えたまま生活する者は多くなり、また、従来の医学モデルでは解決できない、健康への様々なニーズが顕在化してきている。特に少子高齢化が高度に進んだ日本においては、この社会を看護学モデルとして扱い、新たな対処方法を構築することへの社会的期待が高まっている。つまり、生きることを支える学問である看護学は、あらゆる年代の個人から集団、地域社会を対象に、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛緩和等について、生涯を通して支援することが出来る。</p> <p>本講義では、保健・医療・福祉の分野における臨床実践や研究、政策活動に至るまで、社会で広く活躍している看護のプロフェッショナルから実際の活動についてご講義いただき、少子高齢社会において看護学が担う役割と今後の看護学の発展について議論する。</p>
授業のキーワード /Keywords	看護、医療、健康、地域社会、人
授業計画 /Schedule	<p>9/26 よい職場をつくる</p> <p>10/3 2040年（とその先）を見据えた地域包括ケア体制の構築</p> <p>10/10 がんとともに生きる人を支える～皮膚ケアとアピランスの視点から～</p> <p>10/17 看護とデータと情報システム</p> <p>10/24 女性の健康を支える</p> <p>10/31 世界の人々の健康のために最新のエビデンスを明らかにする ―コクランの挑戦―</p> <p>11/14 災害時の保健活動</p> <p>11/28 国際看護学のすすめ 文化、習慣や考え方の違う人を看護するには</p> <p>12/5 認知症を抱えながら生きる人々を支える</p> <p>12/12 看護の力を届けるために</p> <p>12/19 理工学的アプローチにより健康を支える</p> <p>12/26 がんの子どもと家族を支える</p> <p>1/9 精神障害を持つ人々を支える</p>
授業の方法 /Teaching Methods	講義
成績評価方法 /Grade Evaluation	出席及び毎回の小レポートにより評価を行う。



## 大学院講義

看護管理学／看護体系・機能学分野は、看護管理学特論Ⅰ、看護管理学特論Ⅱ、看護体系・機能学Ⅰ、看護管理学・看護体系機能学ゼミを担当している。

### 看護管理学特論Ⅰ

講義題目 /Subtitle	医療・看護における組織現象を理解するための看護管理学の主要概念を学ぶ				
授業の目標、概要 /Course Objectives/ Overview	看護管理学とは、看護の力を効果的に患者に届け社会に活かす方法を探求する学問であり、看護の視点や価値観を組織活動に活かすことを追求する学問である。本科目では、看護管理学において重要な概念である「組織」と「人」を理解する基盤となる理論を学び、さらに組織における人の行動に影響を与える「環境」について学ぶ。授業においては、ケースを用いて組織開発のアプローチを探求するワークを行う。また、法律、行政、病院経営、医療システム社会工学、建築の各分野で活躍する講師からの講義を受け、ディスカッションを行う。これらを通じて看護管理学の概要及び医療・看護で生じ得る組織現象を理解し、組織に働きかける際、あるいは、組織を研究する際に必要となる知識やパースペクティブを涵養することを目的とする。				
授業のキーワード /Keywords	<table border="1"> <tr> <td>日本語用 /Japanese</td> <td>看護管理, リーダーシップ, マネジメント, 組織開発, 質管理, 職場環境</td> </tr> <tr> <td>英語用 /English</td> <td>nursing administration, leadership, management, organizational development, quality management, work environment</td> </tr> </table>	日本語用 /Japanese	看護管理, リーダーシップ, マネジメント, 組織開発, 質管理, 職場環境	英語用 /English	nursing administration, leadership, management, organizational development, quality management, work environment
日本語用 /Japanese	看護管理, リーダーシップ, マネジメント, 組織開発, 質管理, 職場環境				
英語用 /English	nursing administration, leadership, management, organizational development, quality management, work environment				
授業計画 /Schedule	<p>4月10日(水) 1・2限 「組織論、リーダーシップ論」</p> <p>4月17日(水) 1・2限 「医療社会システム工学による看護の臨床知の可視化と質保証」 (東京大学大学院工学系研究科 水流聡子)</p> <p>4月24日(水) 1・2限 「建築・環境デザインから医療・看護を変える」(工学院大学 寛淳夫)</p> <p>5月8日(水) 1・2限 「法律からみた看護」(國學院大學名誉教授 平林勝政)</p> <p>5月15日(水) 1・2限 「組織の力を引き出す：テッセイの事例を用いたワーク」</p> <p>5月22日(水) 1・2限 「病院経営の現場から」(東京ベイ・浦安市川医療センター 井出恵伊子)</p> <p>5月29日(水) 1限(～10:45) 「保健医療行政で理想の実現を目指して」(厚生労働省 島田陽子)</p>				
授業の方法 /Teaching Methods	担当教員及び非常勤講師による講義ならびにディスカッション、および、ケースを用いたワーク				
成績評価方法 /Grade Evaluation	出席、ディスカッションへの参加、ケースワークの発表、毎回の講義後レポートと最終レポートにより統合的に評価する				
教科書 /Textbook	各講義で資料を配布する。ケースについては事前に資料を貸し出す				
参考書 /Reference	特になし。各講義で参考図書を紹介を行う				
履修上の注意 /Notes on Taking the Course	講師の都合により日時変更の可能性がある。				

看護体系・機能学特論 I

講義題目 /Subtitle	文献抄読				
授業の目標、概要 /Course Objectives/ Overview	E.H.シャイン『企業文化ーダイバーシティと文化の仕組み』を抄読し、組織文化およびその形成、発展、変革のダイナミクスについて理解を深める。また、研究デザインについて研究例とともに学ぶ。				
授業のキーワード /Keywords	<table border="1"> <tr> <td>日本語用 /Japanese</td> <td>企業文化、組織文化、組織変革、論文クリティーク</td> </tr> <tr> <td>英語用 /English</td> <td>corporate culture, organizational culture, organizational development, critique of research articles</td> </tr> </table>	日本語用 /Japanese	企業文化、組織文化、組織変革、論文クリティーク	英語用 /English	corporate culture, organizational culture, organizational development, critique of research articles
日本語用 /Japanese	企業文化、組織文化、組織変革、論文クリティーク				
英語用 /English	corporate culture, organizational culture, organizational development, critique of research articles				
授業計画 /Schedule	6/5 (水) 1・2限 文献抄読『企業文化』序文, 1章, 2章 6/12 (水) 1・2限 文献抄読『企業文化』3章, 4章, 研究デザイン 6/19 (水) 1・2限 文献抄読『企業文化』5章, 研究デザイン 6/26 (水) 1・2限 文献抄読『企業文化』6章, 7章, 研究デザイン 7/3 (水) 1・2限 文献抄読『企業文化』8章, 9章, 研究デザイン 7/17 (水) 1・2・3限 文献抄読『企業文化』10章, 11章, あとがき, 研究デザイン				
授業の方法 /Teaching Methods	抄読, クリティーク, ディスカッション				
成績評価方法 /Grade Evaluation	課題, および, ディスカッションへの参加状況				
教科書 /Textbook	E.H.シャイン 著/尾川丈一 監訳・松本美央 訳. 『企業文化 [改訂版] ーダイバーシティと文化の仕組み』. 白桃書房. 2018. 研究論文は適宜指定する。				
参考書 /Reference	適宜紹介する				
履修上の注意 /Notes on Taking the Course	課題文献を読んで参加すること				

## 看護管理学特論Ⅱ

講義題目 / Subtitle	研究論文クリティーク
授業の目標、概要 / Course Objectives/ Overview	看護管理学に関する研究論文のクリティークを通じて、看護管理学研究の最新のトピックス、方法論、知見を学ぶ。
授業のキーワード / Keywords	日本語用 / Japanese 看護管理学, 研究論文クリティーク 英語用 / English nursing administration, critique of research articles
授業計画 / Schedule	9/25 (水) 2限 10/2 (水) 2限 10/9 (水) 2限 10/16 (水) 2限 10/30 (水) 2限 11/6 (水) 2限 11/13 (水) 2限 11/20 (水) 2限 11/27 (水) 2限 2020/2/12 (水) 2限 2/19 (水) 2限 2/26 (水) 2限 3/5 (水) 2限
授業の方法 / Teaching Methods	論文抄読, および, ディスカッション
成績評価方法 / Grade Evaluation	課題, および, ディスカッションへの参加状況
教科書 / Textbook	研究論文は講義において指定する
参考書 / Reference	適宜講義において紹介する
履修上の注意 / Notes on Taking the Course	研究論文を読んで参加すること
関連ホームページ / Course-Related Websites	<a href="http://nurs-adm.umin.jp/education/">http://nurs-adm.umin.jp/education/</a>
その他 / Others	履修希望者は9/24までに連絡すること

※大学入学試験のため2月26日は19日1限に変更。3月5日は新型コロナウイルス感染防止対策のため中止

## 抄読論文

看護体系・機能学特論Ⅰ 令和元年6月—7月 毎週月曜日 9:00-12:00

看護管理学特論Ⅱ 令和元年9月—令和2年3月 毎週水曜日 10:00-12:00

- 6月19日 抄読: Montani, F., Maoret, M., & Dufour, L. (2019). The dark side of socialization: How and when divestiture socialization undermines newcomer outcomes. *Journal of Organizational Behavior*, 40(4), 506-521.
- 7月17日 抄読: Kuosmanen, A., Tiihonen, J., Repo - Tiihonen, E., Eronen, M., & Turunen, H. (2019). Changes in patient safety culture: A patient safety intervention for Finnish forensic psychiatric hospital staff. *Journal of nursing management*, 27(4), 848-857.
- 9月25日 抄読: Sung, S. C., Jiang, H. H., Chen, R. R., & Chao, J. K. (2016). Bridging the gap in sexual healthcare in nursing practice: implementing a sexual healthcare training programme to improve outcomes. *Journal of clinical nursing*, 25(19-20), 2989-3000.
- 10月2日 抄読: Hu, J., Erdogan, B., Bauer, T. N., Jiang, K., Liu, S., & Li, Y. (2015). There are lots of big fish in this pond: The role of peer overqualification on task significance, perceived fit, and performance for overqualified employees. *Journal of Applied*

- Psychology*, 100(4), 1228.
- 10月9日 抄読 : Astakhova, M. N. (2016). Explaining the effects of perceived person-supervisor fit and person-organization fit on organizational commitment in the US and Japan. *Journal of Business Research*, 69(2), 956-963.
- 10月16日 抄読 : Lo, S. H., Chang, A. M., & Chau, J. P. (2018). Stroke Self-Management Support Improves Survivors' Self-Efficacy and Outcome Expectation of Self-Management Behaviors. *Stroke*, 49(3), 758-760.
- 10月30日 抄読 : Hobman, E. V., Bordia, P., & Gallois, C. (2004). Perceived dissimilarity and work group involvement: The moderating effects of group openness to diversity. *Group & Organization Management*, 29(5), 560-587.
- 11月6日 抄読 : Järvelin-Pasanen, S., Ropponen, A., Tarvainen, M., Paukkonen, M., Hakola, T., Puttonen, S., ... & Pohjonen, T. (2013). Effects of implementing an ergonomic work schedule on heart rate variability in shift-working nurses. *Journal of occupational health*, 12-0250.
- 11月13日 抄読 : Salanova, M., Lorente, L., Chambel, M. J., & Martínez, I. M. (2011). Linking transformational leadership to nurses' extra - role performance: the mediating role of self - efficacy and work engagement. *Journal of advanced nursing*, 67(10), 2256-2266.
- 11月20日 抄読 : Sakuma, A., Takahashi, Y., Ueda, I., Sato, H., Katsura, M., Abe, M., & Matsuoka, H. (2015). Post-traumatic stress disorder and depression prevalence and associated risk factors among local disaster relief and reconstruction workers fourteen months after the Great East Japan Earthquake: a cross-sectional study. *BMC psychiatry*, 15(1), 58.
- 11月27日 抄読 : Cheon, Y. J., Choi, S. K., Kim, J., & Kwak, K. T. (2015). Antecedents of relational inertia and information sharing in SNS usage: The moderating role of structural autonomy. *Technological Forecasting and Social Change*, 95, 32-47.
- 2月12日 抄読 : Koen, J., Klehe, U. C., & Van Vianen, A. E. (2012). Training career adaptability to facilitate a successful school-to-work transition. *Journal of Vocational Behavior*, 81(3), 395-408.
- 2月19日 抄読 : Chmil, J., Turk, M., Adamson, K., & Larew, C. (2015). Effects of an Experiential Learning Simulation Design on Clinical Nursing Judgment Development. *Nurse Education Today*
- 2月19日 抄読 : Galatsch M., Li J., Derycke H., Müller BH., & Hasselhorn HM. Effects of requested, forced and denied shift schedule change on work ability and health of nurses in Europe -Results from the European NEXT-Study. *BMC Public Health*
- 3月4日 (新型コロナウイルス感染防止対策のため開催中止)  
抄読 : 抄読 : Hofhuis J, Van der Rijt P. G. A. & Vlug M. (2016). Diversity climate enhances work outcomes through trust and openness in workgroup communication. Springerplus. 5, 714.

## 看護管理学/看護体系機能学ゼミ

平成31年4月—令和1年6月(S1) 毎週火曜日 9:30-11:30

令和1年6月(S2)—令和2年3月 毎週火曜日 13:00-15:00

場所：医学部3号館N203

4月2日	ゼミオリエンテーション 教員・D2自己紹介	10月1日	磯部	研究報告
			船越	研究報告
4月9日	M1・M2・D1自己紹介	10月8日	寿々木	研究報告
4月16日	田中 修士振り返りと計画		井上	研究報告
	石井 修士振り返りと計画	10月29日	佐伯	研究報告
4月23日	高橋 修士振り返りと計画		高橋	研究報告
	磯部 研究報告	11月5日	寿々木	研究報告
5月7日	井上 研究報告	11月12日	石井	研究報告
	佐伯 研究報告		長岡	研究報告
5月14日	駒形 研究報告	11月19日	田中	研究報告
	寿々木 研究報告		井上	研究報告
5月21日	船越 研究報告	11月26日	磯部	研究報告
	渡邊 研究報告		高橋	研究報告
5月28日	蔣 研究報告	11月27日	井上	真田先生スーパーバイズ
	長岡 研究報告	12月10日	船越	研究報告
6月4日	田中 研究報告		長岡	研究報告
	高橋 研究報告	12月17日	石井	研究報告
6月11日	佐伯 研究報告		蔣	研究報告
	石井 研究報告	12月24日	佐伯	研究報告
6月18日	井上 研究報告		寿々木	研究報告
	船越 研究報告	1月7日	井上	修論提出準備
6月25日	磯部 研究報告	1月15日	井上	修論発表予演
	蔣 研究報告	1月21日	井上	修論発表予演
7月2日	駒形 研究報告		佐伯	研究報告
	長岡 研究報告	1月28日	田中	研究報告
7月9日	渡邊 研究報告		長岡	研究報告
	寿々木 研究報告	2月18日	磯部	研究報告
9月4日	高橋 研究報告		船越	研究報告
	井上 研究報告	2月25日	渡邊	研究報告
9月10日	渡邊 研究報告		寿々木	研究報告
	高橋 研究報告	3月3日		中止(新型コロナウイルス 感染防止対策のため)
9月17日	石井 研究報告	3月24日	石井	研究報告
	蔣 研究報告		蔣	研究報告
	佐伯 研究報告			
9月24日	長岡 研究報告			
	田中 研究報告			

## 学位論文

修士論文（提出：令和2年1月8日／発表会：令和2年1月23日・24日）  
（学位取得：令和2年3月23日）

井上 真帆. The influence of growth opportunities in the workplace on perceived person-environment fit among hospital nurses: A longitudinal study（職場における成長機会が個人-環境適合感に与える影響：病院看護職を対象にした縦断研究）

## 教員の活動

武村雪絵

特別講演・教育講演・研修

1. 東京都ナースプラザ. 平成 31 年度東京都看護職員定着促進支援事業（アウトリーチ型支援）事業説明会「きらり輝く看護組織へ～中小規模病院が持つちから～」. 東京都看護協会. 2019. 2. 13.
2. 東京都ナースプラザ. 「看護管理の基本」. 東京都ナースプラザ. 2019. 2. 14-15.
3. 日本看護系大学協議会国際交流推進委員会. 「スマートな国際学会発表をめざして 2」. 東京医科大学. 2019. 3. 24.
4. 公益社団法人静岡県看護協会. 「コンピテンシーを基盤とした看護管理-成長する組織づくり」. 静岡県看護協会. 2019. 6. 1.
5. 東京都ナースプラザ. 平成 31 年度東京都看護職員定着促進支援事業（アウトリーチ型支援）課題解決研修会. 「めざす姿を共に探す」. 東京都看護協会. 2019. 6. 10.
6. 公益社団法人医療・病院管理研究協会. 「職員が発揮できる職場づくり-ミッションとエンパワメントによる管理」. 株式会社ホギメディカル本社ビル. 2019. 6. 29.
7. 公益社団法人東京都看護協会. 「コンピテンシー・モデルを用いて自己成長と他者育成のヒントを学ぶ」. 東京都看護協会. 2019. 8. 2.
8. 東京都ナースプラザ. 「看護管理の基本」. 東京都看護協会. 2019. 8. 8-9.
9. 公益社団法人静岡県看護協会. 認定看護管理者教育課程サードレベル. 人材管理Ⅲ「看護管理者の育成」. 静岡県看護協会. 2019. 8. 30.
10. 令和元年度看護管理者連絡会議. 「誰が？育てる？看護師のキャリア」. 練馬区立練馬文化センター. 2019. 9. 11.
11. 公益社団法人沖縄県看護協会. 「コンピテンシーモデルを活用した看護管理～人材育成のヒントを学ぼう～」. 沖縄県看護研修センター. 2019. 9. 13.
12. 公益社団法人沖縄県看護協会. 「ミッションマネジメントと組織開発～対話に基づく組織開発～」. 沖縄県看護研修センター. 2019. 9. 14.
13. 独立行政法人地域医療機能推進機構. 認定看護管理者教育課程サードレベル. 2019. 9. 20.
14. 公益社団法人宮城県看護協会. 認定看護管理者教育課程サードレベル. 組織管理論Ⅲ「組織デザインと組織運営」. 宮城県看護協会. 2019. 10. 18.
15. 第 9 回東大看護研究シンポジウム. 基調講演「活動の評価—確かに存在する違いを何のためにどうとらえるか」. 東京大学医学図書館. 2019. 10. 20.
16. 独立行政法人国立病院機構. 認定看護管理者教育課程サードレベル. 「組織における倫理」. 国立病院機構研修センター. 2019. 11. 14.
17. 独立行政法人国立病院機構中国四国グループ. 副看護部長研修「コンピテンシーを活用した看護管理者の能力開発と実践支援」. 岡山医療センター. 2019. 11. 24.
18. 公益社団法人医療・病院管理研究協会. 「主体としてキャリアをつむぐ看護師へ—管理者ができる支援とは」. 株式会社ホギメディカル本社ビル. 2020. 1. 11. & 2. 15.

19. 公益社団法人神奈川県看護協会. 「看護管理者を支えるミッションとエンパワメント」. 神奈川県看護協会. 2020. 2. 14.
20. 東京都ナースプラザ. 「看護管理の基本」. 東京都看護協会. 2020. 2. 20-21.

#### 非常勤講師

- 藍野大学. 認定看護管理者教育セカンドレベル. 人材管理Ⅱ「人を育てるマネジメント」. 2019. 8. 31.
- 聖路加国際大学. 「看護教育学演習Ⅰ」. 2019. 7. 20.
- 東京女子医科大学. 認定看護管理者教育課程ファーストレベル. 組織管理論Ⅰ「組織マネジメント概論」. 2019. 7. 6.
- 東京女子医科大学. 「看護管理論」. 2019. 6. 18.

#### 社会活動

- 公益財団法人日本医療機能評価機構 教育研修事業運営委員会委員, 教育研修企画部会委員
- 公益社団法人日本看護科学学会 評議員, 研究・学術推進委員会委員
- 一般社団法人日本看護管理学会 将来構想委員会委員
- 医療福祉建築協会 理事
- 日本看護評価学会 評議員
- 看護理工学会 評議員
- 東京都ナースプラザ 事例検討会講師

#### 國江慶子

##### 社会活動

- 東京都ナースプラザ巡回訪問事業. 事例検討会講師・交流会講師
- 第50回日本看護学会（看護管理）論文選考委員
- 東京都ナースプラザ「看護管理の基本」ファシリテーター
- 日本看護管理学会 評議員・教育委員会委員

#### 市川奈央子

##### 社会活動

- 日本看護評価学会. 編集委員
- 第10回日本看護評価学会学術集会 実行委員

#### 木田亮平

##### 社会活動

- 東京都ナースプラザ「看護管理の基本」ファシリテーター

#### 菅野由貴子

##### 社会活動

- 日本クリニカルパス学会 評議員



## 研究室業績（2019年1月～2020年3月）

### 原著論文・研究論文

2019年1月～12月）

1. 佐伯昌俊, 國江慶子, 武村雪絵, 竹原君江, 市川奈央子. 看護職及び看護補助者による看護補助者役割の認識—測定尺度の開発—. 病院. 2019; 78(5)
2. 遠藤 優, 駒形和典, 武村雪絵, 池田真理, 竹原君江, 飯村大智. 看護師の吃音に対する知識・認識・態度及び吃音を持つ看護師の職場環境：横断研究. 日本看護管理学会誌 2019; 23(1): 1-12.

2020年1月～3月）

3. Takemura Y, Kunie K, Ichikawa N. The effect of work environment on burnout among nurse directors: a cross sectional study. *Journal of Nursing Management*. 2020; 28(1): 157-166
4. 小澤茉祐, 竹原君江, 武村雪絵, 國江慶子, 市川奈央子. 初めて外来で化学療法を受けるがん患者への看護師によるアセスメントの実施に関連する職場環境要因—心理面・社会面に着目して. 日本看護管理学会誌. (印刷中)
5. Ikeda M, Kanai H, Osaka M, Tamai N, Takemura Y, Sanada H. Implementing appearance-care program research for breast cancer patients into routine clinical practice. *Open Journal of Nursing*, 2020. (in press)
6. 石井馨子, 武村雪絵, 市川奈央子, 國江慶子, 木田亮平. 日本語版組織学習サブプロセス測定尺度の信頼性・妥当性の検証. 日本看護管理学会誌. 2020 (印刷中)
7. Saiki M, Kunie K, Takemura Y, Takehara K. & Ichikawa N. The relationship between nurses' perceptions of nursing assistant roles and information-sharing behaviors: A cross-sectional study. *Nursing and Health Sciences*. (in press)

### 報告書

2019年1月～12月）

1. 武村雪絵他. 看護職員確保対策に向けた看護職及び医療機関等の実態調査. 厚生労働行政推進調査事業補助金(厚生労働科学特別研究事業)報告書. 厚生労働科学研究成果データベース. 2019; 20186012A.

### 総説・報告

2019年1月～12月）

1. 武村雪絵. 収穫のある国際学会発表のために. 看護研究 2019; 52(5): 351-357.
2. 高橋好江. 国際学会発表の経験を修士論文に生かす—質的研究における分析切り口の試行錯誤から学会発表に至るまで. 看護研究. 2019; 52(5): 358-362.

2020年1月～3月）

3. 武村雪絵. 特集. 30人が振り返り展望する看護管理の現在・過去・未来—ワクワク刺激的な『看護管理』を. 看護管理 2020; 30(1): 34.

## 学会発表

2019年1月～12月)

1. Saiki M, Kunie K, Takemura Y, Takehara K, Ichikawa N. The relationship between nurses' expectations of nursing assistant roles and the information-sharing behavior in integrated community care wards. 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) conference. Jan 17-18, 2019, Singapore.
2. Komagata M, Takemura Y, Ichikawa N, Takehara K, Kunie K. Association between part-time work, job characteristics and job satisfaction among ward nurses in Japanese hospitals. 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) conference. Jan 17-18, 2019, Singapore.
3. Funakoshi C, Kunie K, Takemura Y, Takehara K, Ichikawa N. Mediating effects of positive experience during restructuring in the relationship between frontline manager's support and nurses' organizational commitment. 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) conference. Jan 17-18, 2019, Singapore.
4. Takemura Y, Kunie K, Takahashi Y, Sato H. Team management in operating hospitals following the earthquake-triggered nuclear accident in Fukushima: How did nurse managers handle their strained teams? European Nursing Congress 2019, Mar 4-5, 2019, London, UK
5. Isobe T, Kunie K, Takemura Y, Ikeda M. Relationships among five categories of front-line nurse managers visions discovered through their narratives. European Nursing Congress 2019, Mar 4-5, 2019, London, UK
6. 甲斐貴雅, 市川奈央子, 武村雪絵, 木田亮平. 看護職が患者に対する怒りに伴い抱える「思考の未統合感」に関する横断研究. 第9回日本看護評価学会学術総会. 3月11・12日, 2019, 東京.
7. Okuyama A, Takemura Y, Higash T. Identifying cancer patients' care needs after discharge hospital using health claim data linked with Hospital-based Cancer Registry data in Japan. 2019 ASCO Annual Meeting Abstracts.  
[http://abstracts.asco.org/239/AbstView\\_239\\_253891.html](http://abstracts.asco.org/239/AbstView_239_253891.html)
8. 木田 亮平、佐々木 美奈子、國江 慶子、堀込 由紀、米倉 佑貴、市川 奈央子、武村 雪絵. 看護職員確保に向けた採用活動・就業支援制度と効果の実感に関する施設横断的実態調査. 第23回日本看護管理学会学術集会. 8月23・24日, 2019, 新潟.
9. 國江 慶子、武村 雪絵、大田 敦子. 自治体が実施するアウトリーチ型支援（看護職員定着促進事業）に参加した看護管理者が経験するプロセスと体験. 第23回日本看護管理学会学術集会. 8月23・24日, 2019, 新潟.
10. 田中 慎吾、武村 雪絵、國江 慶子、市川 奈央子、木田 亮平. 急性期病棟の個室的多床室における病室の空間利用：看護師判断に基づく病棟内転床とベッド配置変更. 第23回日本看護管理学会学術集会. 8月23・24日, 2019, 新潟.

11. 長坂 雄太、市川 奈央子、武村 雪絵、國江 慶子、木田 亮平. 上司—スタッフの相互理解を促す看護師（仲介看護師）の存在が所属部署に与える影響—師長への信頼感との関連の検証. 第23回日本看護管理学会学術集会. 8月23・24日, 2019, 新潟.
  12. 石井 馨子、武村 雪絵、市川 奈央子、國江 慶子、木田 亮平. 看護師長の変革型リーダーシップと部署の組織学習の関連—マルチレベル分析を用いた横断研究—. 第23回日本看護管理学会学術集会. 8月23・24日, 2019, 新潟.
  13. 甲斐 貴雅、市川 奈央子、武村 雪絵、國江 慶子、木田 亮平. 看護職が患者に対する怒りの経験に伴い有するストレス症状とコーピング特性及びソーシャルサポートとの関連：横断研究. 第23回日本看護管理学会学術集会. 8月23・24日, 2019, 新潟.
  14. 武村 雪絵、國江 慶子、高橋 好江、池田 真理、佐々木 美奈子、佐藤 博子. 職場のダイナミクスを描く質的研究への挑戦—福島原発事故後の病院における看護師・看護管理者の職場体験を描く複数組織事例研究. 第23回日本看護管理学会学術集会. 8月23・24日, 2019, 新潟.
  15. 武村雪絵, 國江慶子, 大田敦子. 中小規模病院の未来につなぐ看護管理実践を支える：公的機関が実施するアウトリーチ型支援事業. 第50回日本看護学会—看護管理—. 10月23・24日, 2019, 名古屋.
  16. 三津家照美, 大和田真知子, 國江慶子, 武村雪絵. アウトリーチ型支援を受けた中小規模病院看護管理者の実感—職場はどう変化し、認識したか—. 第50回日本看護学会—看護管理—. 10月23・24日, 2019, 名古屋.
  17. Ishii K, Takemura Y, Ichikawa N, Kunie K, Kida R. The relationship between organizational learning and individual-level or ward-level organizational socialization: A cross-sectional survey of acute hospital nurses. 5th International Nursing Conference. Oct. 23-25, 2019. Rome, Italy.
  18. 木田亮平、戸ヶ里泰典、緒方泰子. 看護職が認識する部署の看護の質と人的資本（ヒューマン・キャピタル）および社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）との関連. 第57回日本医療・病院管理学会学術総会. 11月2・3日, 2019, 新潟.
  19. 井上真帆、國江慶子、武村雪絵、市川奈央子、木田亮平. 多面的な「知覚された個人—環境適合」を測定する日本語版適合感尺度の開発：看護職における信頼性と妥当性の検証. 第57回日本医療・病院管理学会学術総会. 11月2・3日, 2019, 新潟.
  20. 佐々木美奈子、國江慶子、木田亮平、堀込由紀、佐伯昌俊、井上真帆、米倉佑貴、市川奈央子、武村雪絵. 看護職員の採用方針に関する施設横断的実態調査. 第57回日本医療・病院管理学会学術総会. 11月2・3日, 2019, 新潟.
  21. 武村 雪絵, 市川 奈央子, 駒形 万里絵, 船越 千佳, 磯部 環, 國江 慶子, 木田 亮平. 潜在看護職を含む看護職の免許取得後の就業状況. 第39回日本看護科学学会学術集会. 11月30日・12月1日, 2019, 石川.
- 2020年1月～3月)
22. Saiki M, Kunie K, Takemura Y, Ichikawa N. Effects of nurses' expectations of nursing assistant roles on nursing assistants' information-sharing behaviors: A longitudinal study of

integrated community care wards in Japan. 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) conference. Jan. 10-11, 2020. Chiang Mai, Thailand.

23. Horigome Y, Kunie K, Kida R, Sasaki M, Takemura Y. Attributes of nursing personnel desired by nursing directors in Japan: Content analysis of open-ended questionnaires. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science. Feb. 28-29, 2020. Osaka Japan.
24. Kunie K, Sasaki M, Kida R, Horigome Y, Saiki M, Yonekura Y, Inoue M, Ichikawa N, Takemura Y. Recruiting nurses with specific certification and nurses beyond retirement age: A survey in the medical care and elderly care facilities in Japan. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science. Feb. 28-29, 2020. Osaka Japan.

## 受賞

2019年1月～12月)

1. 【オーラル賞】長坂 雄太、市川 奈央子、武村 雪絵、國江 慶子、木田 亮平. 上司－スタッフの相互理解を促す看護師（仲介看護師）の存在が所属部署に与える影響－師長への信頼感との関連の検証. 第23回日本看護管理学会学術集会. 2019.（新潟, 8月23日・24日）

## 研究助成など

研究助成)

1. 市川奈央子（研究代表者）. 看護職のプロフェッショナルリズム育成プログラムの開発に向けて. 日本学術振興会科学研究費補助金若手研究(B), 平成29年度-平成31年度（令和元年度）.
2. 國江慶子（研究代表者）. 看護師の経済的・社会的・組織的価値認識－3次元共通価値拡大モデルの構築. 日本学術振興会科学研究費補助金若手研究(B), 平成29年度-平成31年度（令和元年度）.
3. 國江慶子・武村雪絵・市川奈央子. 中小規模病院看護組織へのアウトリーチ相談型支援提供者の専門的技能及び実践プロセスとその成果の同定－東京都巡回訪問事業支援員と被支援組織を対象としたプロセス分析. 一般社団法人日本看護管理学会研究助成, 平成30年度-平成31年度（令和元年度）.
4. 武村雪絵（研究代表者）. コンピテンシーモデルを用いた3層リフレクションによる看護管理者の能力開発プログラムの評価：準実験研究. 平成30年度公益財団法人三菱財団社会福祉事業・研究助成, 平成30年度-平成31年度（令和元年度）.
5. 井上真帆（研究代表者）病院看護職の職場における個人－環境適合感に影響するサポートを明らかにするための縦断研究. 政策医療振興財団研究助成. 令和元年度.
6. 武村雪絵（研究代表者）. 看護職の労働時間・勤務環境の改善に向けた調査研究. 令和元年度厚生労働行政推進調査事業費（地域医療基盤開発推進研究事業）. 令和元年度.

7. 磯部環（研究代表者）職場移動における看護師のエンプロイアビリティ：採用で重視される要素の施設区分による違い，日本看護管理学会研究助成，令和2年1月-令和3年10月。
8. 武村雪絵（研究代表者）．看護職のエンプロイアビリティ及びコンピテンシーに関する研究．株式会社ファーストスター・ヘルスケア共同研究．令和2年2月～令和5年3月。

奨学金・奨励金)

1. 石井馨子（博士課程1年）．ソーシャル ICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム（GCL）奨励金
2. 田中慎吾（博士課程1年）． ソーシャル ICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム（GCL）奨励金
3. 井上真帆（修士課程2年） 公益社団法人日本看護協会 高橋美智大学院教育（看護管理）奨学金

## 教室の出来事

2019年4月2日 新年度が始まりました。

修士課程大学院生3名を新しく迎えました。博士課程は3名が修士課程から、1名は研究生から進学し新年度をスタートしました。



2019年4月9日 歓迎会を開催しました。

歓迎会を行いました。客員研究員の先生方にも御参加いただき、楽しい集いとなりました。教室歓迎会の後、院生同士歓迎会も行いました。



2019年5月11日 大学院説明会が開催されました。

5月11日（土）に大学院健康科学・看護学専攻の入試説明会が開催されました。看護管理学分野での説明会にも多くの方にご参加いただきました。



2019年6月7日～28日 毎週金曜日に学部の看護管理学実習を行いました。

学部4年生が東京大学医学部附属病院、東京大学医科学研究所附属病院、聖路加国際病院で看護管理学実習をさせていただきました。それぞれの病院で多様な側面から管理を学び、今までの病院実習とは異なる視点で看護を捉えることができました。

2019年7月19日～8月1日 学部の基礎看護学実習を行いました。

学部3年生が東京大学医学部附属病院で基礎看護学実習をさせていただきました。

2019 月 7 日 4 日 院生室で慰労会を開催しました。

院生室メンバーで慰労会を行いました。修了生も参加し楽しい会になりました。



2019 年 8 月 1 日 前期懇親会を開催しました。

前期懇親会を開催しました。OB・OG も参加してくださいました。前期の頑張りをねぎらい、後期の活動に向けて励まし合いました。



2019 年 8 月 5 日・6 日 サマープログラムで来日した海外の学生と意見交換を行いました。

UTokyo Nursing Summer Exchange Program に参加中のペンシルベニア大学、香港中文大学からそれぞれ 1 名の院生が当教室のプログラムに参加し、院生と意見交換を行いました。



2019年8月8日・9日 東京都ナースプラザ研修で講義を行いました。

武村准教授が東京都ナースプラザで行う「看護管理の基本」の講義に、昨年に引き続き、研究室から教員と博士課程院生が演習ファシリテーターとして参加しました。院生は修士課程での研究成果の紹介も行いました。

2019年8月23日・24日 第23回日本看護管理学会学術集会に参加しました。

当研究室からは6演題発表しました。またインフォメーションエクステンジも1セッション開催しました。インフォメーションエクステンジでは共同研究者の先生方に指定発言も行っていただきました。

長坂雄太さん（2018年度修士課程修了生）の口演発表がオーラル賞を受賞しました。



2019年8月23日納涼会を行いました。

第23回日本看護管理学会学術集会の期間中に開催地新潟で納涼会を行いました。



2019年9月21日 大学院生が奨学金に採択されました。

修士課程2年の井上真帆さんが、平成31年度高橋美智大学院(看護管理)奨学金の交付を受けました。





2019年10月23日・24日 第50回日本看護学会－看護管理－に参加しました。

名古屋で開催された第50回日本看護学会－看護管理－に参加しました。当研究室からは共同研究1演題の発表と交流集会を行いました。

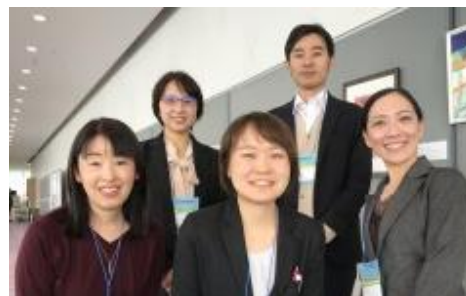
2019年10月23日～25日 大学院生が国際学会で発表しました。

ローマで開催された5th International Nursing Conferenceで博士課程1年の学生が演題発表を行いました。



2019年11月2日～4日 第57回日本医療・病院管理学会学術総会に参加しました。

新潟市で開催された第57回日本医療・病院管理学会学術総会で3演題の発表を行いました。



2019年11月30日・12月1日 第39回日本看護科学学会に参加しました。

金沢市で開催された第39回日本看護科学学会で1演題の発表を行いました。

2020年1月8日 修士論文を提出しました。

修士課程の学生1名が修士論文を提出しました。終了後、ランチ会をしました。

2019年12月10日

菅野由貴子先生が学術支援専門職員に着任されました。

2020年1月10・11 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) conferenceで発表しました。

第22回EAFONSはシンガポールでの開催でした。当研究室から1題発表しました。



2020年1月23日・24日 修士論文審査会が行われました。

修士論文を提出した1名が修士論文審査会で発表しました。

2020年1月24日 慰労会&新年会を開催しました。

修士論文審査会の慰労会と合わせ、新年会を開催しました。修論生の頑張りをねぎらいつつ、来年の修論・博論の提出に向け、励まし合いました。おいしいお料理とともに、和やかな会となりました。



2020年2月13日 大学院生2名が東京大学フューチャーファカルティープログラムを修了しました。

博士課程1年高橋好江さんと、修士課程1年の寿々木剛志さんが、東京大学が主催する教育力向上を目的とした「東京大学フューチャーファカルティープログラム（東大FFP）」を修了しました。他分野の教員や院生と一緒にグループワークや模擬授業を通して学びを深めました。



2020年2月20日・21日 東京都ナースプラザ研修で講義を行いました。

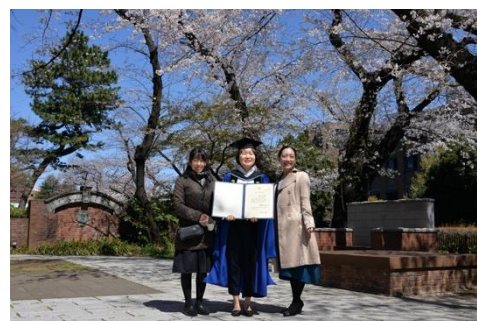
武村准教授が東京都ナースプラザで行う「看護管理の基本」の講義の2回目が開講（1回目は8月）されました。研究室から教員と博士課程院生が演習ファシリテーターとして参加しました。

2020年2月28日・29日 世界看護学会（WANS）に演題が登録されました。

当研究室からは2演題登録しましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催は中止となりました。

2020年3月23日 大学院修士課程の学位授与式が行われました。

当研究室からは1名が修士課程を修了しました。修士号取得おめでとうございます。



2020年3月24日 感謝の会セレモニーを行いました

ゼミ終了後に感謝の会セレモニーとして、ご栄転される先生の新たな門出を祝いつつ、思い出を語り、感謝を伝え合いました。



2020年3月31日 教員1名・学術支援専門職員1名が退任しました。修士課程修了者は博士課程に進学します。